

製品名: P16 (マウスおよびヒト) マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80587**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、ウサギ
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2b
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	16.5kDa

抗原情報

遺伝子名	P16
別名	P16
遺伝子 ID	1029.0
SwissProt ID	P42771
免疫原	大腸菌で発現した P16 の精製された組み換え断片。

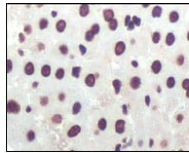
背景

細胞周期における細胞の進行は、サイクリン依存性キナーゼ (Cdk) として知られるタンパク質キナーゼファミリーによって制御されています。このファミリーの個々のメンバーが順次活性化され、その結果として重要な基質がリン酸化されることで、細胞周期の秩

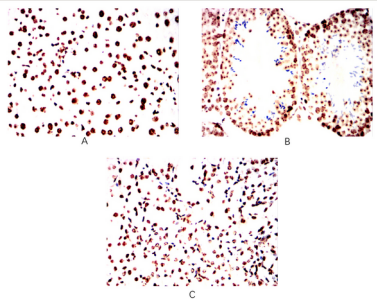
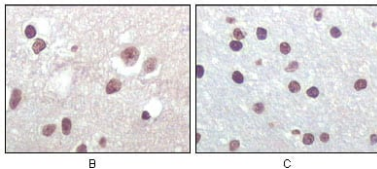
序立った進行が促進されます。サイクリンは、Cdkの発現を制御する正の調節因子として機能します。細胞周期の負の調節因子には、p53誘導性の21 kDa WAF1/Cip1タンパク質 (p21)、Kip1、p27、p16などがあります。Cdk4とD型サイクリンによって形成される複合体は、G1期における細胞増殖の制御に深く関与していることが示唆されています。最近、p16がCdk4に結合し、Cdk4/サイクリンD複合体の触媒活性を阻害することが示されました。さらに、p16をコードする遺伝子は、樹立されたヒト腫瘍細胞株において、高頻度にホモ接合欠失および点変異を示します。

研究分野

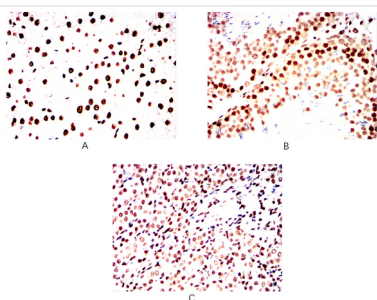
画像データ



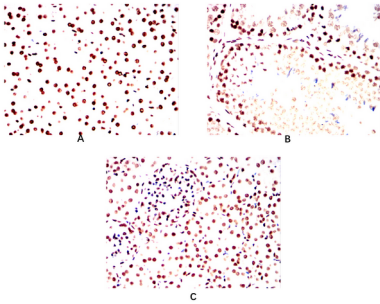
パラフィン包埋ラット肝臓組織 (A)、ヒト脳組織 (B)、および脳腫瘍 (C) の免疫組織化学分析。DAB染色によるP16マウスmAbを使用して核局在を示しています。



P16 (マウスおよびヒト) マウス mAb と DAB 染色を使用した、パラフィン包埋マウス肝臓 (A) マウス精巣 (B) マウス腎臓 (C) の免疫組織化学分析。



P16 (マウスおよびヒト) マウス mAb と DAB 染色を使用した、パラフィン包埋ラット肝臓 (A)、ラット精巣 (B)、ラット腎臓 (C) の免疫組織化学分析。



P16 (マウスおよびヒト) マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ウサギ肝臓 (A) ウサギ精巣 (B) の免疫組織化学分析。